

森林で子どもを育てる試み

森林幼稚園 取組事例集

～札幌大谷第二幼稚園編～

野外・森林での遊びを多く行い
高い評価を得ている札幌大谷第二幼稚園。
そのねらいはどこにあるのだろう。
ここでは同幼稚園の活動を事例として
紹介するとともに、
その教育的効果を検証する。



子どもに「命」の尊さを。

当園は園児を自然の中に連れていくのが特徴です。それは一口に言って「命の尊さ」を知る一つの方法だからです。近年、文明の発達により、私たちがどれほど「自然によって生かされているか」を知る機会が減少してしまっています。このような時代だからこそ、自然が命を守ってくれていることを知って欲しいと願わずにはいられないのです。そこで、幼稚園では、自然と共に遊びながら実体験型の活動を大いに取り入れています。

森林に入れば豊かな動植物が学ぶ機会を与えてくれます。小さな葉が大きくなり、やがて紅葉して枯れ草になっていく様子、豊富な花や実を食べながら棲む虫や小鳥、動物たち。その糞を肥やしに伸びる草木。自然の摂理を子どもは五感で感じ取り

「命」を生きているのは人間だけではないことを素直な心で捉えています。「リスさんのためにドングリを残していこう」「ハチさん、チヨウチヨウさん、蜜を少しくださいね」と、花の蜜を吸う子ども達。自然は心を癒し、優しさを育て、たくさん学びをくれます。

「衣食住」の遊びは 生活の原形。

そして人間を支える「衣食住」の原形も、園の遊びに十分取り入れています。「衣」に関しては草木染めが盛んに行われ、染色

の変化を楽しんでいます。「食」は、ヨモギやタンポポを摘んできては食べたり、ドングリを団子にして食べます。「住」では、泥遊びをたっぷりしてから泥粘土で器を焼きます。

時折、親から「うちの子、私よりヨモギを正確に見つけたすのよ」と言う言葉をもらいます。その子には「生きる力」がすでに持っているように感じます。子ども達は遊びの中に、このような「衣食住の原形」が組み込まれていることは知る由もないでしょう。それで良いのだと思います。自然によって生かされていることが体にしみこんでいれば「自他の命の尊さ」を知る機会になるに違いありません。当園はこれからも「命」を大切にする教育にねらいを定めて続けていきたいと思っています。



札幌大谷第二幼稚園 園長
齊藤 千代 先生

森林環境教育と幼児

幼児期に英語を教えることは
どれだけ重要か。

昨今、幼児教育がクローズアップされているが、多くは音感や英語などのように特質的な分野に重きを置いていることが多い。しかし、乳児期から幼児期に重要なことは、様々な感覚や考え方に触れ、体験することである、ということが分かってきている。そういった体験を通して総合的な感覚を育てることは、後に特質的な教育を受け入れ、その能力を伸ばすための土台として欠かせない。逆にその土台がなければ、幼児期に与えたどんな教育も功を奏さない。それは、現代社会が抱える引きこもりや犯罪年齢の低下といった社会問題が十分に証明しているだろう。

「森林環境教育」のねらい。
それを超えた真実。

森林環境教育は、森林をその場としながら総合的な感覚を育て、将来的に森林に対する関心を持ってもらうための土台をつくるというねらいをもっている。

しかし、そういったねらいを抜きにしても、森林という場が幼児の様々な能力に対して働きかける力は、優しくも強い。子ども達は様々な刺激を森林から与えられる。そしてそれは目に見えない肥料となつて、

少年期・青年期に成長した子ども達の、とても大きく大きな財産になるはずだ。

日本人を育んだのが森林であるという事実を、今一度見つめ直してはいかがだろうか。そこには私たちの全てが内包されているはずなのだから。

幼児における「環境教育」

森林環境教育を含む「環境教育」は、何を学ぶかよりもその段階とプロセスを大切にする考え方(図)。



幼児期における環境教育として重要なものは、「関心を寄せること」であると言われる。そしてそれは、「楽しむこと」によって促されるのだ。

この本の見方

事例集は札幌大谷第二幼稚園が実際にに行った野外活動を取り上げて紹介しています。

題名

この活動に便宜的につけた題名です。副題は活動の目的を大まかに示したものです。

活動の流れ

例えばこんな活動の流れはいかがですか？参考にしてアレンジしてください。写真は、こんな活動をしたときに見られる子ども達の表情です。最後に発展的な活動の例も示しました。

活動の様子

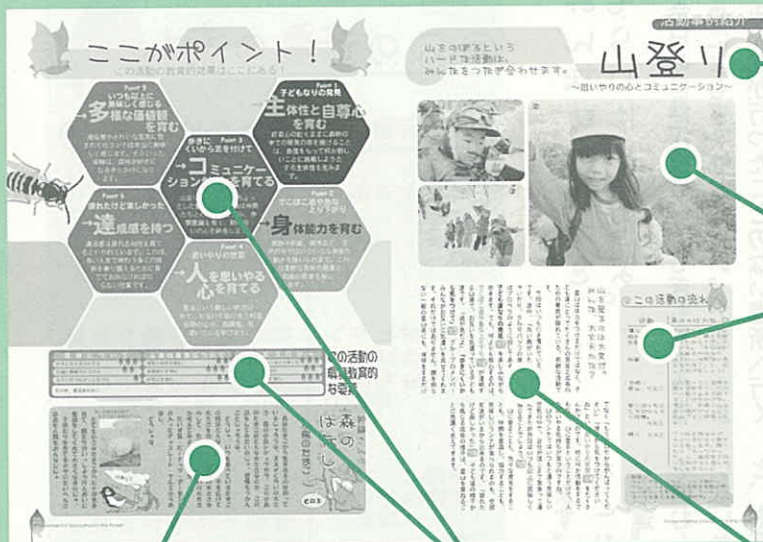
これは実際に大谷第二幼稚園の先生方が活動を行い、感じた子ども達の様子を報告したレポートを編集したものです。この中に見られる環境教育的なエッセンスを色分けして抽出しています。

活動のポイント

「活動の様子」で抽出したエッセンスを解説しています。子ども達の様子や先生方の指導の仕方がどんな風に子ども達に良いのかという解説です。また、環境教育として育てるべき教育目標に対する効果を三段階で表示しました。

自然の知識

森林に入っても子どもに何を伝えて良いかわからない大人も多いでしょう。そんな方のために、森林で子ども達に考えてもらおうとおもしろい自然のトピックをピックアップしました。



食べるために
自然のものをいただく。
そこには色んな
発見と学びがあります。

摘み草

～命をつなぐことへの気づき～



みんなのあやつを
もらいにいこうよ。

今日の自然探検は、よもぎもちを作るためにもぎを摘むお使い。でも、今までみんなが行ったことのない場所へ行くのだから、たくさん発見が待っているに違いありません。バスが止まると我先にかけだし、大きなたらいにヨモギを集め始めます。

Point 1 花束のように持っている子、先生の大きな帽子を籠にして集める子、自然博士の先生に色んなことを教えてもらいながら集める子。

今日はついでにタンポポの葉っぱもいただきます。タンポポとヨモギの葉っぱはギザギザの付き方や色が違います。そのために、バスの中で「タンポポの葉はどれだクイズ」をしながらかきました。春だからこそ味わえるタンポポの葉っぱ。ヨモギと同じようにたらいにたくさん集

Point 2 採ってきた葉っぱは自分たちでヨモギもちやタンポポ汁にして、Point 5 みんなで味わいます。春を感じること、自分が摘み取った命を頂くこと。Point 6 そんなありがたさを感じる活動です。

◎ この活動の流れ

活動	声のかけかた
導入： 出かける前の お話	あやつの材料を採りに行こうと言うの てくれるでしょう。 読み聞かせるほらあ 薦めの絵本は 「おいしい野草」
ヨモギとタン ポポのみつけ かたみわけか た 写真①	摘む草の特徴をお話 します。葉のギザギ ザや、葉の裏が白い など、簡単には部分か ら。
本体： 草摘みと遊び 帰り 写真②	目的の草を集めます が、そこから発展す る様々な遊びを楽し みましょう。
摘んだ草を使 ってお料理	持ち帰った草は「自 分が採ってきた」感 覚を忘れないうちに 食べるのがよいでし ょう。
まとめ： おいしく いただきます 写真③	

発展：
食べられる葉っぱの種類がたくさんあ
ることを知ると一つ一つの植物への認
識が変わってきます。色んな草を食べ
させてあげましょう。

ここのポイント！

この活動の環境教育的効果はここにある！

自分たち Point 5
でヨモギもちや

→ **環境容量
への気づき**

採った草は数時間後に枯れてしまう。次の年にその場所へ行っても同じ草は生えていない。など、自然には限界があり資源にも限界があることを感じます。

自分が Point 6
摘み取った
命を頂く

→ **自分との
つながりに気づく**

「自分と自然と資源」というつながりは、このように自らが強く関わることで生まれる気づきです。自分が他の命に活かされていることに気づきます。

Point 3
お互いに教えながら

→ **コミュニケー
ション能力を育てる**

野外での活動では活発な子ども同士のコミュニケーションが見られます。違う年齢間のコミュニケーションはとても重要です。

Point 4
エンゴサクの花を
探して

→ **好きになり
大切にする**

年中行事として行うことで、季節と自分たちの暮らしが密接につながっていることや、季節感そのものを感じることができます。

ヨモギを Point 1
集めはじめます。

→ **主体性と自尊心
を育む**

採集して食べるという行程は、本能に近い欲求なのでとても楽しく感じ、主体性を育てる元になります。また、植物を識別できることは自信にもつながるでしょう。

Point 2

ぎざぎざの付き方や色

→ **知識と観察
する力を育てる**

ちょっとした草花の違いなどは、自分が食べることになると積極的に見分けるようになり、それは様々な生き物たちの違いを見つける目に成長していきます。

森 林 に つ い て

好きになり大切にする

知識と観察力をつける

自分とのつながりに気づく

その他 環境容量への気づき

心 身 の 発 育 に つ い て

感覚と感性を育む

身体能力を育む

好奇心を育む

心 の エ コ ロ ジ ー

コミュニケーション能力を育む

多様な価値観を育む

主体性や自尊心を育む

この活動の
環境教育的
な要素



森の鳥
カケスさん
ドングリが好き
ドングリを植
えてくれている
森の種まきさん

カケスさんのシマシマ頭まで
みえればうれしいな

森の中を飛んでいる小鳥さんたち、みんなは気がついていないかな。立ち止まってしばらくしていると声が聞こえる。近づいてくるかな。鳥さんがいたらジットしていることじゃ。動いてはダメ。「こっちへおいでよ」と小さな声で呼びかけてごらん。鳥さんの方からワシらがいったい何しているのか見に来るから。



小鳥と仲良くなる？
小鳥と仲良しになるには、森の中でじっとすることじゃ。石みだいに、立っている木みだいにあって森の中に溶け込んでしまうのじゃ。できるかな。

は森の
おの
し



その①

森林を手入れする。
働いた後にもらえる
森林からのごほうび。

柴刈り

～森林のお仕事～



モリのお仕事を
手伝ったら
どんなご褒美
待ってるかな？

陽春うららかなになって地面の雪解けが進むと、雪で折れた小枝などが、公園のあちこちに散らばっているのが目に付きます。春一番はこの小枝拾いも、一役買います。公園管理者に許可を取って枝拾いをするのは、**森林を健全に保つための手入れをする**ことになり、また、ゴミとして廃棄されてしまう小枝の有効利用にもなるのです。「この枝は焼き芋に使おうよ。」**Point 3**と云うと「先生、早く焼き芋しようよ。」と、枝を束にしてくれる子、袋に落ち葉をたくさん詰めてくれる子、みんなのがんばりであつという間に柴刈りは終了です。中には柴の束を背負って、昔話のおじ

いさんを演じる子どもがいたりします。また、拾ってきた枝のほこぼこしている所を見て、「これは冬芽じゃないの？」という声に「冬芽だったら、顔みたいに見えるよね」**Point 5**と、疑問に感じたことも経験から自分たちで考えようとする姿があちらこちらで感じられます。さらに、乾燥したオオイタドリのはらは火付きが良く、たき付けになることを知っていて、イタドリ専門に集める子どももいたりします。**Point 6**古い木の枝から見出されることの多さに驚かされるひとときです。

◎ この活動の流れ

活動	声のかけかた
導入： 出かける前のお話 写真①	昔話の「おじいさんは山へ柴刈りに」という声かけは面白い。また、葉っぱや木の枝で遊ぶことから話を広げるのもよいでしょう。
出発	
本体： 公園に落ちた木の枝を拾う。 写真②	公園の管理者に許可をとってから折れた木の枝を拾います。集めた枝で何をするのか、想像をふくらませる言葉をかけてあげます。もちろん、他の遊びをすることも容認してあげましょう。よく働いたね。と、ほめてあげましょう。
帰り	
まとめ： 帰ってから木の枝を使って焼き芋作り。 写真③	働いたごほうびに焼き芋です。
発展：	森林のお仕事をする事で、いつもみんが気持ちよく過ごせるし、森林からもらえるご褒美もたくさんある。というように森林の意義付けも。

ここがポイント！

この活動の環境教育的効果はここにある！

Point 5
これは冬芽
じゃないの？
→ **知識と観察する力**

森林にはおもちゃはありません。でも子ども達にとっては、森のあらゆる物はおもちゃであり、遊びの源になり得ます。遊びを創造する力が生まれます。

Point 3
この枝は
焼き芋に使うよ
→ **好きになり
大切にする**

作業の後でおやつを食べるという喜びは素朴に誰もが嬉しいものです。その達成感がまた子ども達を森林に誘います。達成感は目的志向性を育てます。

Point 1
雪害で折れた小枝
→ **自然の営みを知る**

季節と森林と自分の結びつき、つながりを感じることができるようになります。現代人が忘れがちな季節と自分の生活のリズムが結びつきます。

Point 6
イタドリ専門に集める
子ども
→ **役割分担と協調性**

枝や落ち葉や焚きつけなど、多くの要素があって初めてお芋が焼けます。それぞれの役割を担うためのコミュニケーションと協調性が育ちます。

Point 2
森林を健全に
保つための
→ **自分との
つながりに気づく**

森林と人間の関係性に気づきます。人が手を入れた森林は人が管理しなければ荒れてしまいます。人が使うことで守られる森林に気づきます。

Point 4
焼き芋
→ **コミュニケー
ション能力を育くむ**

昔は誰もがやったような遊びの共通体験を持つことは、異世代とのコミュニケーションツールを持つことにつながり、コミュニケーション能力が育まれます。

森 林 に つ い て	心 身 の 発 育 に つ い て	心 の エ コ ロ ジ ー
好きになり大切にする	感覚と感性を育む	コミュニケーション能力を育くむ
知識と観察力をつける	身体能力を育む	多様な価値観を育む
自分とのつながりに気づく	好奇心を育む	主体性や自尊心を育む
その他 自然の営みを知る		

この活動の
環境教育的
な要素



ゴッ

んはー
無理は
しない
もんじゃ

こんな可愛い顔してるのはだれかな？鳥さんの顔を近くで見るとはなかなかできんもんじゃ。それを見てほしいておもってな、登場してもらったのじゃ。

虫を食べたり、くだものを食べたりたねを食べたり、くちばしの形は食べているごはんによっていろいろなのじゃ。

虫を食べる鳥は小さくちばし、たねを食べる鳥さんは大きくちばし。この大きくちばしにかかるとかたい木の実はパチッと割れるのじゃ。カギになったくちばしはネズミの肉も引きさいてしまうのじゃ。

肉。

虫。

タネ。

は森
のし

幹爺さんの

その②

山をのぼるという
ハードな活動は、
みんなをつなぎ合わせます。

山登り

～思いやりの心とコミュニケーション～



山を登るのは大変だ。
みんな、大丈夫かな？

登山は体力をつけるだけではなく、子ども達にとってたくさんの発見と成長のための要素が隠れている、素敵な活動です。

今回はいつも行き慣れている円山登山です。途中、「赤い鳥がいたよ」とはしゃいだり、クルマバソウの葉をみつけてはプロペラのように回してあそんだり、子ども達なりの発見 **Point 1** を楽しみながら歩きます。でも、何よりも感心するのは、**でこぼこ道や急な上り下り** **Point 2** が連続する山道で、お互いを気遣っている子ども達です。「道が急だよ」「歩ぎにくいから気をつけて」 **Point 3** グループのメンバーみんながお互いに気遣いを見せてくれます。それだけではありません。顔を知らない一般の登山者にも、挨拶をするだけ

でなく「もう少しだからがんばってください」「滑るから気をつけてくださいね」という思いやりの言葉 **Point 4** をたくさんかけるのです。特に何か活動をするでもなく、山に登るということだけで、人を思いやる気持ちが育つんですね。

山のランチではいつもと違う美味しい空気の中で、自分が頂上まで背負って運んできたお弁当はいつも以上に美味しく感じるでしょう。 **Point 5**

山に登ることも、色々な発見をすることも、仲間を意識し、協力することも、美味しいランチが食べられるのも、全部友達がいるから出来るのです。「疲れたけど楽しかった」 **Point 6** 子ども達の様子から感じる成長の様子は、登山を重ねることに色濃く見えてきます。

◎ この活動の流れ

活動	声のかけかた
：導入： 出かける前の お話	常日頃から読んでいる絵本は、様々な発見のための下しえです。「今日はどんな発見があるかな？どんな動物に会えるかな？」と、促してあげましょう。
出発	
：本体： 登山 写真①	山に登っている時の様々な発見を、一つ一つ受け止めてあげることが大切です。頂上か、見晴らしの良い場所でゆっくり休み「よく頑張ったね」。
登り切ったところ でゆっくり休憩。 写真②	
帰り 写真③	下りは危険なので、十分に子ども達の動きに注意します。降りたら「やったやった」と、達成感を促してあげると良いかもしれません。
：発展： グループを作ったり、つくらなかつたり、いつも遊ばない子同士を同じグループにして登らせたり、チームワークを育てる良い活動です。	

ニニがポイント！

この活動の環境教育的効果はここにある！

Point 5
いつも以上に
美味しく感じる
→ **多様な価値観を育む**

達成感やきれいな空気に包まれてのランチは本当に美味しく感じます。そういった体験は、森林が好きになるきっかけになります。

Point 3
歩きに
くから気をつけて

→ **コミュニケーション能力を育てる**

山登りは子どもにはちょっとした冒険です。冒険は仲間たちとの連帯感を生み、仲間意識を育て、助け合いの心を助長します。

Point 1
子どもなりの発見

→ **主体性と自尊心を育む**

好奇心の赴くままに森林の中での発見の旅を続けることは、自信をもって何か新しいことに挑戦しようとする主体性を生みまします。

Point 2
でこぼこ道や急な
上り下り

→ **身体能力を育む**

悪路や斜面、倒木など、自然の中ではいろいろな身体の動きを強いられます。これは柔軟な身体発達と知能の発育を促します。

Point 6

疲れたけど楽しかった

→ **達成感を持つ**

達成感とは目的志向性を育てるといわれています。これは、長い人生で味わう多くの挫折を乗り越えるために育てておかねばならない性質です。

Point 4

思いやりの言葉

→ **人を思いやる心を育てる**

登山という厳しい状況の中で、お互いを助け合う相互扶助の心や、協調性、気遣いの心を学びます。

森 林 に つ い て

好きになり大切にする

知識と観察力をつける

自分とのつながりに気づく

心 身 の 発 育 に つ い て

感覚と感性を育む

身体能力を育む

好奇心を育む

心 の エ コ ロ ジ ー

コミュニケーション能力を育む

多様な価値観を育む

主体性や自尊心を育む

その他 達成感を持つ 人を思いやる心を育てる

この活動の
環境教育的
な要素

は鳥も人間もおなじじゃ。

子どもたちを育てる親のたいへんさは鳥も人間もおなじじゃ。

※この卵は巣の中で
ヒナになりませんでした。



どうじゃな。

だいず豆・ピーナッツ・アーモンドの
入ったチョコレート・クルミかうめ

ぼし。

そうじゃ。いつも食べているたまご

の親はどんな大きさかな。手を広げて

大きさを作ってほしい。その大きさを

か考えてみようじゃないか。

だいたい。いつも食べているたまご

の親はどんな大きさかな。手を広げて

大きさを作ってほしい。その大きさを

か考えてみようじゃないか。

だいたい。いつも食べているたまご

小鳥のたまご

は森の
おじい



雨の日以来、
風の日以来、
いつもと違った自然、
違った感覚。

厳しい 自然の中で

～様々な価値観を育てる～



天気が悪いね。
だから今日は、
いつもと違う森林が
待ってるよ。

強い風の中を歩いていると、**Point 1**「早くおいでって、背中を押してくれたの」と嬉しそうに話してくれる子がいました。

別の子は「私の頭をなでてくれたの」と、素敵な感性で話してくれました。**Point 2**風や雨がひどいときは、とにかく室内にこもりがちですが、悪天候だからこそ見られる自然の表情、子ども達の感性があります。**Point 3**

ビニール袋にスズランテープをつけた道具を取り出し、走り始めた子ども達。

強い風の中でお手製の凧は空高く舞い上がり、子ども達の歓声がその後を追っているようです。ある子はタンポポの綿毛を花束のようにたくさん持ち、「ふー

ふー」

◎ この活動の流れ

活動	声のかけかた
：導入： 出かける前の お話 写真①	風や雨の絵本はたくさんあります。「風のおまつり」（いぬいとみこ・福音館書店）などは良いかもしれません。また、「雨の日は何が见られるでしょうね」でも良いでしょう。
：本体： 雨や風の日の お散歩。竹が だけは気を付 けて。 写真②③	いつもと違う色や音、生き物に注目させてあげてください。「晴れの日ははかったよね」
：まとめ： 不鬼識に思っ たことを分か ち合い。	たくさんのお見見は、しっかり受け止めてあげること、疑問を持った子には、絵本や図鑑などで一緒に調べてみましょう。分からなかったら、それはそれでよいのです。
：発展： この場所に晴れた日に来たらどんなだろう。の発展形で、季節を変えて何度も訪れるのも良いでしょう。	

つ」。タンポポの子ども達は一斉に風に
乗ってどこか遠くに飛んでいきました。
それを見ていた子はどんな気持ちだった
のか、ずっと空を見つめていました。

雨の日には合羽を身に纏い、フードを
しっかり被って森林へ行くのが良いので
す。雨の森林は、葉っぱの一枚一枚から
立ち上る森の匂いが充満し、木々の葉の
色もきれいに輝きます。**Point 4**強い雨で、
たくさん落ちてきた、普段は見られない
高い木についているものを見ることもで
きます。たくさん落ちてきた柳の花を、

子ども達は「毛虫だよ」と言っ
て拾い上げては**Point 5**手のひらに集めます。また、
コブシの冬芽を覆っていたカラは、まる
で小さな茶色の動物みたい。子ども達は
「リスの耳だ」と言っ
て嬉しそうです。

雨の日にしか見られない**Point 6**森林の姿に、
子ども達の感性も冴えます。



ニニカポイント！

この活動の環境教育的効果はここにある！



Point 5

「毛虫だよ」
と言って拾い上げては

→ **空**想力を育くむ

森林の様々な物は子ども達に様々なインスピレーションを与えます。それらは子ども達の空想力を育むためにとても重要です。

Point 1

強い風の中を歩いていると

→ **好**きになり
大切にする

激しい風や雨は、自然への敬意や畏怖の念を感じさせます。自然を敬い、大切にすることはこういってところからも生まれるのです。

Point 3

悪天候だからこそ

→ **多**様な価値観を育てる

同じ場所に違う天気の日に行くことで新しい発見があります。自然の多様性を知り、多様な価値観を学びます。

Point 2

風や雨がひどいときは、

→ **身**体能力を育てる

厳しい条件で遊ぶことにあまり理由はいらないかもしれません。それは、くじけそうな環境を克服することで単純に心と身体を鍛えることができるからです。

Point 6

雨の日には見られない

→ **主**体性と**自**尊心を育む

人と違う遊びをするということは、多様な価値観を得るだけでなく、自主性や自尊心を養います。

Point 4

森の匂い

→ **感**覚と**感**性

雨の日は、いつもと違う感覚をたくさん使うことができます。冷たい水、森の匂い、空気の感触。これらはみんな、五感を強く刺激します。

森 林 に つ い て

好きになり大切にする

知識と観察力をつける

自分とのつながりに気づく

その他 空想力を育む

心 身 の 発 育 に つ い て

感覚と感性を育む

身体能力を育む

好奇心を育む

心 の エ コ ロ ジ ー

コミュニケーション能力を育くむ

多様な価値観を育む

主体性や自尊心を育む

この活動の
環境教育的
な要素



そうじゃ ドングリの頭の
ほうから 芽がでるのじゃ



幹爺さんの
は森の
はのし
ドングリって
なんだ？
ドングリはどんぐりの木の何にあたるものなのかね。そう聞かれても「考えたこともない」という人も多いのではないかな。ワシがみんなにそう聞いてみると答えにつまる人が多いのじゃ。ドングリはどんぐりの木の種なのじゃ。あたりまえかもしれないが、このことを知っている人は半分以上いられぬ。さてそのドングリは種なのだが、さらにむずかしいことを聞くぞ。この種から芽がでて育っていくのじゃが、どこからでてくるのかね。とんがっている方なのか。その反対の方からでるのかね。答えは森の中にあるのじゃが、今日はとくべつに教えよう。こんど森の中にいって自分でたしかめてみような。



その④